

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

- 警告** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
- 注意** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- ⚠ …… 「注意しなさい！」
(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
- ⊘ …… 「してはいけません！」 (一般的な禁止記号です。)
- ⊘ (分解禁止) …… 「分解してはいけません！」
- ⊘ (水場禁止) …… 「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
- ⊘ (指示) …… 「指示通りにしなさい！」 (一般的な行動禁止記号です。)

⚠ 警告	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。
⊘ (禁止)	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
⊘ (水場禁止)	バスルーム等の水がかかる所や、表面に水滴を生じようような湿気の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
⊘ (禁止)	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (禁止)	電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因となります。
⊘ (禁止)	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (禁止)	交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (禁止)	直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。 ※火災の原因となります。
⊘ (指示)	電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグにホコリがたまり、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
⊘ (指示)	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (禁止)	水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により、漏水、発火、ショート、感電の原因となります。 ※飲用可能な井戸とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。
⊘ (指示)	ストレーナーの掃除をする際は、必ず止水栓を閉じてから行ってください。 ※水が噴出して、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
⊘ (禁止)	トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンジャー、クレゾールを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
⚠ 注意	
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
⊘ (禁止)	水栓先端への他の器具の接続や、他の浄水器との併用はしないでください。 ※摩耗・変形などでパッキンの寿命が短くなり吐水時に微小の水がにじみ出る恐れがあります。
⊘ (禁止)	水道水の飲用基準に適合した水をお使いください。 ※体調を損なう恐れがあります。
⊘ (禁止)	凍結の恐れがある場所では使用しないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
⊘ (指示)	各接続部は水漏れのないように確実に接続してください。 ※水が噴出して、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
⊘ (禁止)	吐水口は手や布巾でさわらないでください。 ※残留塩素を除去しているため、雑菌が繁殖しやすくなり、体調を損なう恐れがあります。

本製品の仕様と条件

電源	AC 100V 50/60Hz	消費電力	常時：0.4W 作動時：1.8W
給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水 (※1)
使用環境温度	0℃~40℃	給水給湯接続	G1/2
圧力条件	0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)		
感知距離	約40mm(グレーカード：80mm角)	感知エリア幅	約φ5mm
電源コード長さ	1.8m		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けには専用工具 (KG-9)、スパナ(対辺23、21)、マイナス(小マイナス)ドライバーが必要です。

止水栓を設けてください。

- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために **流量調節をしてください**。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付け後の手動弁操作や施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。

配管・配線について

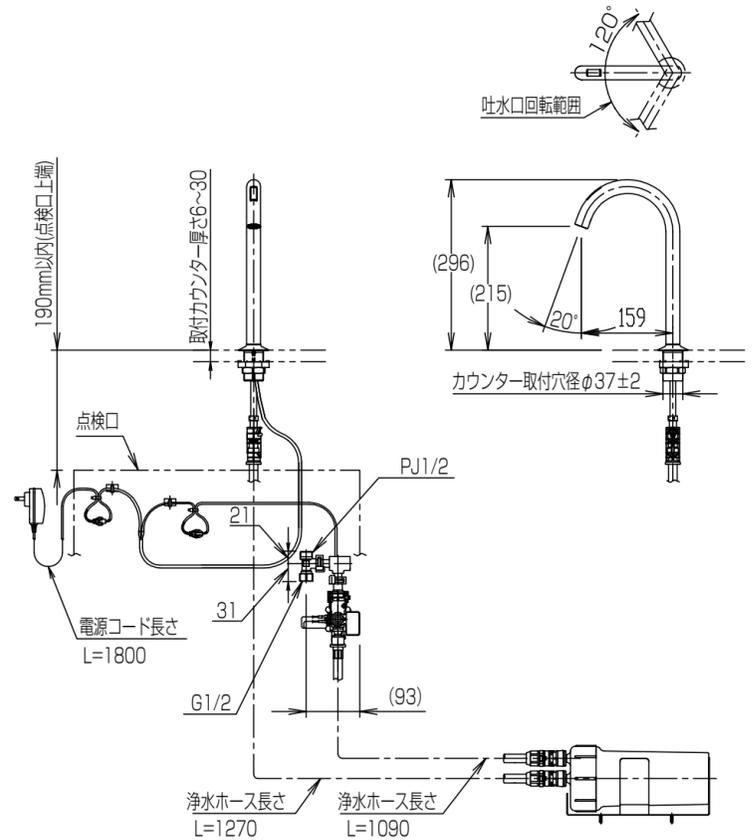
- 給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- ACアダプターは必ず指定のものをご使用ください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。(現場手配)
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
- コンセントは、ACアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず **配管中の異物を完全に洗い流してください**。

その他の注意点

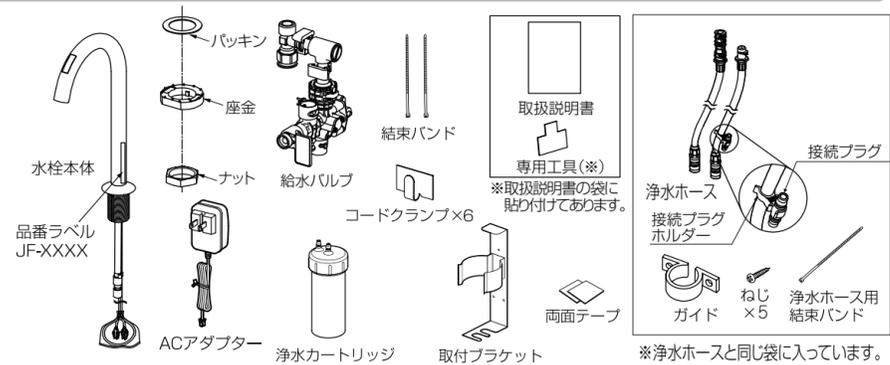
- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因となります。
- 給水水温は35℃以下でご使用ください。
※35℃以上では浄水器の機能が十分発揮されません。

施工完了図

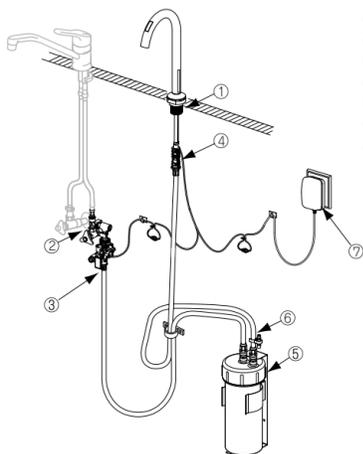
- 品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
- 使用時には、375mm以内(他器具(昇降キャビネットの取っ手を含む)のないようにしてください。
- コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。
- カウンター穴あけ寸法はφ37±2で行ってください。
- カウンター厚さは6~30mmにしてください。



部品の確認



2. 施工手順



- ① 水栓本体の固定
- ② 給水バルブと止水栓の接続
- ③ 給水バルブと浄水ホースの接続
- ④ 水栓本体と浄水ホースの接続
- ⑤ 浄水カートリッジ取付ブラケットの取付け
- ⑥ 浄水ホースの配管接続
- ⑦ 電源部の接続

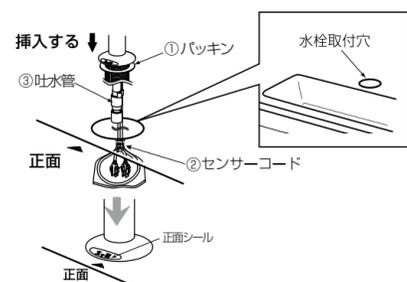
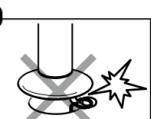
3. 施工方法

1 水栓本体の固定

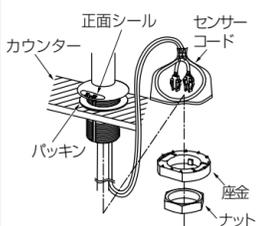
1. 水栓本体にパッキンを取り付け、センサーコードを先に水栓取付穴に挿入し、続いて吐水管を挿入する。正面シールが正面を向くように水栓取付穴に挿入する。

注意

センサーコードをはさまないようにしてください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因となります。



2. 座金にセンサーコードを通し、座金を固定軸に挿入してナットで締め付ける。

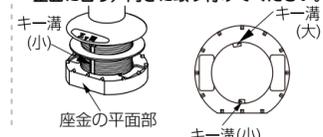


ポイント

●座金から手を離しても落ちてこないように、一時的に固定軸に引っ掛けられるようになっています。

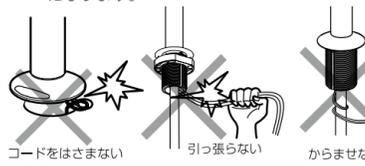


●固定軸にキー溝(大、小)があるため、座金をキー溝に合う(平面部が水栓本体の正面に合う)向きに取り付けてください。



注意

●センサーコードをはさみ込んだり、引っ張ったり、吐水管にからませないでください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因となります。



●専用工具(KG-9)を使用してください。
※ナット締付不足によりガタつきやキャビネット内への漏水の原因となります。



3. 正面シールをはがしてください。

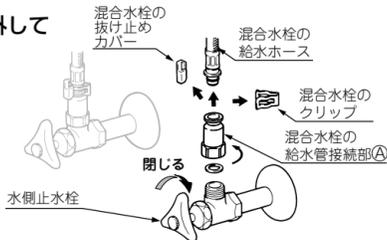


2 給水バルブと止水栓の接続

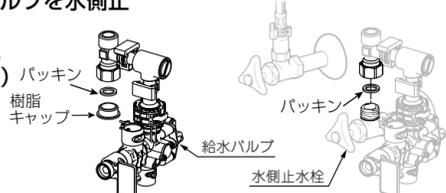
1. 水側止水栓を閉じて混合水栓の給水管接続部(A)を外してください。
※混合水栓の施工説明書を参照してください。(図の商品品番はSF-NA451Sの場合です。)

注意

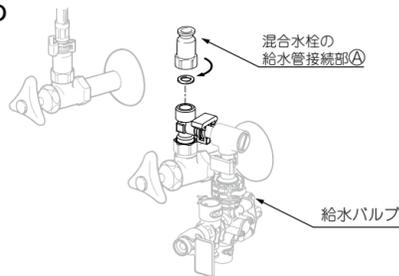
パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因となります。



2. 給水バルブの樹脂キャップを外して、給水バルブを水側止水栓の上に取り付けてください。
※混合水栓の施工説明書を参照してください。(図の商品品番はSF-NA451Sの場合です。)



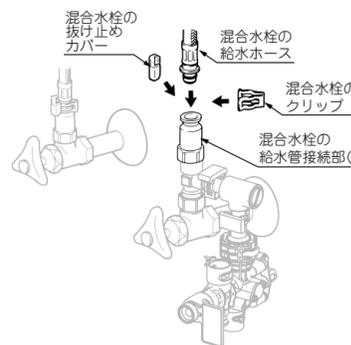
3. 2で取り付けた給水バルブの上に、混合水栓の配管接続部(A)を取り付けます。



4. 混合水栓の給水管接続部(A)に、混合水栓のフレキホースを差し込み、クリップと抜け止めカバーを取り付けてください。

注意

●Oリングにキズをつけたり、ゴミかみをさせないように注意してください。
漏水の原因となります。
●給水ホースを曲げる場合は、曲げ半径を30mm以上確保してください。
無理に曲げるとホースが損傷し、漏水の原因となります。



3 給水バルブと浄水ホースの接続

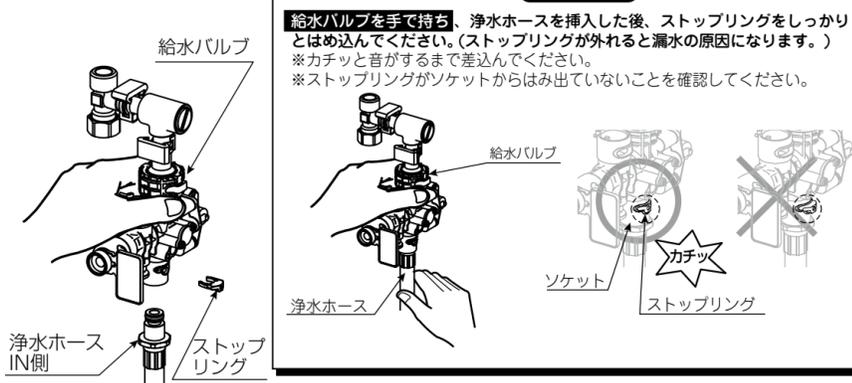
1. 浄水ホースIN側についている保護キャップとストッピングを外す。



2. 給水バルブを手で持ち、浄水ホースIN側を給水バルブのソケット部に差し込み、ストッピングで固定する。

ポイント

給水バルブを手で持ち、浄水ホースを挿入した後、ストッピングをしっかりとはめ込んでください。(ストッピングが外れると漏水の原因となります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストッピングがソケットからはみ出していないことを確認してください。



注意

ストッピングは、しっかりとめ込んでください。
※ストッピングが外れると漏水の原因となります。

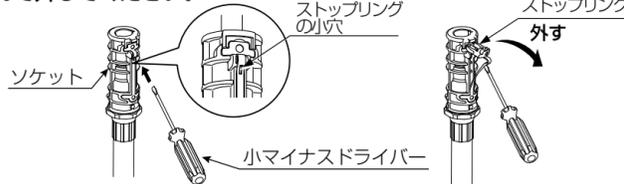
確認

浄水ホースを引っ張っても抜けないこと。

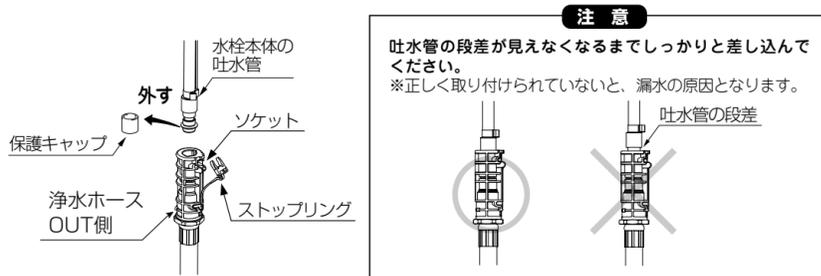
4 水栓本体と浄水ホースの接続

ソケットについているストッピングの上側と吐水管の保護キャップを外してソケットに差し込み、ストッピングをソケットにはめてください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。

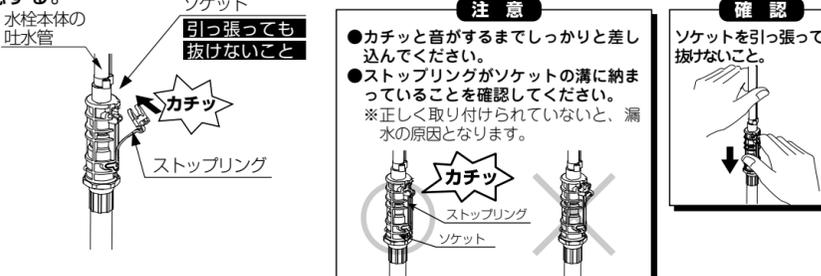
1. ソケットのストッピングの上側にあるストッピングの小穴に小マイナスドライバーを差し込んで外してください。



2. 浄水ホースOUT側のソケットを水栓本体の吐水管に差し込む。



3. ストッピングをソケットに差し込んだ後、ソケットを引っ張っても抜けないことを確認する。



注意

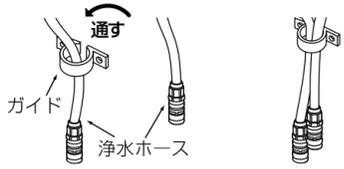
●カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
●ストッピングがソケットの溝に納まっていることを確認してください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。

確認

ソケットを引っ張って、抜けないこと。

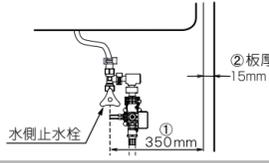
5 浄水カートリッジ取付ブラケットの取付け

1. ガイドに浄水ホースを通す。



キャビネット内側面固定の条件

- ①水側止水栓から350mm以内である
- ②板厚が15mm以上である
- ③右側面に扉や引き出し等の干渉物がない

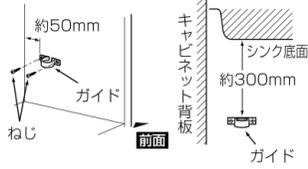


【条件にあてはまる場合】

2. ねじでガイドを指定の位置に固定する。

ポイント

ガイドを床と平行になるように固定し、まわりに障害物(スライド収納等)がある場合は、干渉しない位置に調節する。



3. ねじで取付ブラケットを指定の位置に固定する。

切りかきがある方を前面に向けて固定する。

切欠きはカートリッジ交換の際、浄水ホースを引っ掛けておくためのものです。



ポイント

ねじが差し込みにくい場合は、両面テープを一枚使用し、仮固定した後、ねじを固定する。

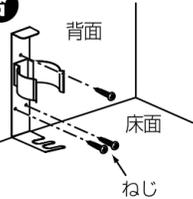
*1:キャビネット内側面が水側止水栓から300mm未満の場合は約30mm、300mm以上の場合は約100mm

【条件にあてはまらない場合】

2. ねじで取付ブラケットを固定する。

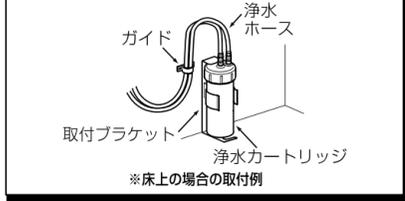
背板に固定する場合

浄水バルブから浄水ホースが届く範囲で取付ブラケットを床板上に置き、背板に固定する。
※背板の板厚が薄い場合は、両面テープで固定してください。



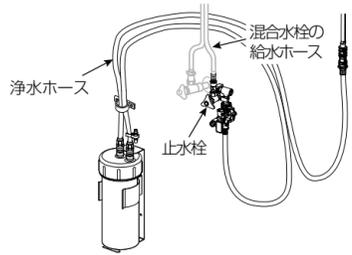
ポイント

床の上の背面に取付ブラケットを固定した場合は、ガイドは必要に応じて取り付けてください。



止水栓よりも左に固定する場合(キャビネット内右側面に固定するスペースがない場合など)

浄水ホースが、止水栓・混合水栓の給水ホースの背面を通るように固定する。



6 浄水ホースの配管接続

1. 結束バンドで2本の浄水ホースを束ねる。



2. 浄水ホースを製品に付属の接続プラグに接続する。(施工後の調整時まで浄水カートリッジには接続しません。)

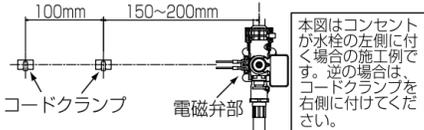


7 電源部の接続

注意

濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電の原因になります。

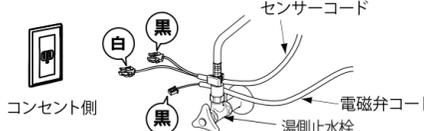
1. キャビネットの背板にコードクランプを取り付ける。(下図2か所は必ず付けてください。)



4. 電磁弁コードとセンサーコードを結束バンドでしっかりと固定する。同様にACアダプターのコードとセンサーコードを結束バンドでしっかりと固定する。
※コネクタに引張力が直接かからないようにするためです。



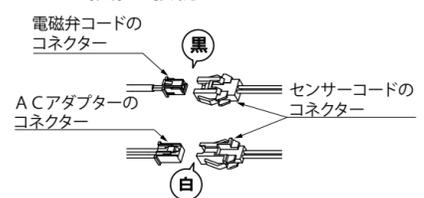
2. 背板に沿ってセンサーコード、電磁弁コードを混合水栓の湯側止水栓の背面からコンセント側に通しておく。



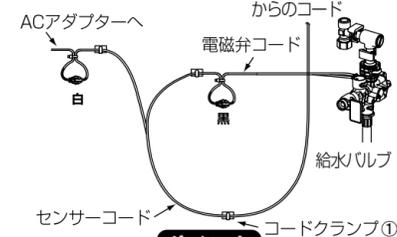
注意

コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電の原因になります。

3. センサーコードのコネクタに電磁弁のコネクタ(黒)とACアダプターのコネクタ(白)を接続する。



5. コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。(5~6か所)



ポイント

上図の「コードクランプ①」は、2つのコネクタよりも下方に設置してください。
※漏水や結露により水滴がコードを伝った場合に、コネクタに到達しないようにするためです。

6. ACアダプターをコンセントに接続する。



7. 施工後、タグを水栓本体に取り付ける。



4. 施工後の調整

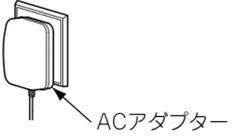
以下の手順の通り、正しく調整してください。

注意

- 混合水栓を先に開けて通水し、配管内のゴミなどを十分に出してください。
- 浄水カートリッジを装着して通水確認をしないでください。
- 配管接続部の水漏れ点検を十分に行ってください。

1 作動確認

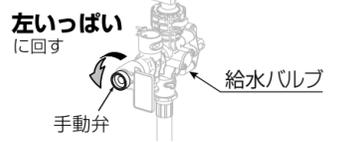
1. ACアダプターがコンセントに正しく差し込まれていることを確認する。



2. 給水バルブの手动弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。

注意

手动弁は工具を使わず手でゆっくり左いっぱいに回してください。
※止水不良(センサーに手をかざしても、水が止まらない。)の原因になります。



3. 水側止水栓を開けて、水側分岐金具の止水栓を全開にする。

開ける

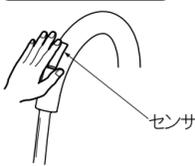


左いっぱいに回す



4. 水栓本体のセンサーに手をかざして通水し、配管内のゴミなどを出したのち各接続部からの水漏れがないことを確認する。

手をかざすと吐水



吐水時に手をかざすと止水

(止水までに1~2秒かかる)



ポイント

- 感知エリアは右図のようになっています。
- 約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
- 3分間吐水が続くと自動的に止水します。



5. センサーにもう一度手をかざして止水し、各接続部からの水漏れがないか確認する。

注意

本製品には安全のため、圧力逃がし弁(約2MPa)を内蔵しています。配管の耐圧検査(1.75MPa以上)を行うときは、止水栓を開けて実施してください。
※圧力逃がし弁が作動し、正しく検査ができなくなります。



2 ストレーナーの掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、ストレーナーの掃除を以下の要領で行ってください。

給水バルブのストレーナーの掃除

ストレーナーは、給水バルブに入っています。

1. 止水栓を閉じる。(右いっぱいに回す)



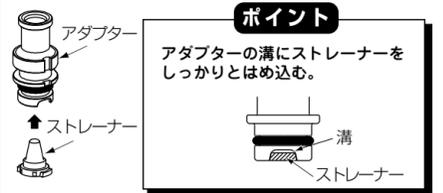
5. ストレーナーをマイナスドライバーで外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



2. 手を差し出し、センサーを感知させ、止水確認・圧抜きをする。



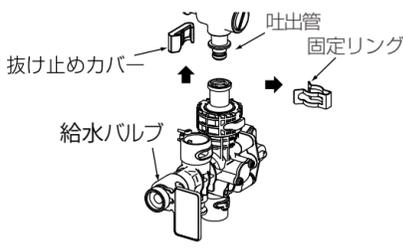
6. ストレーナーをアダプターに取り付ける。



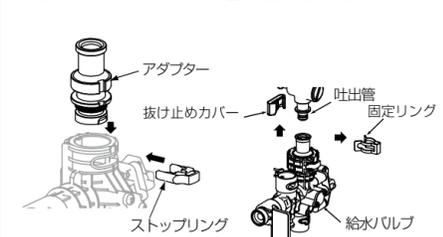
ポイント

アダプターの溝にストレーナーをしっかりとめ込む。

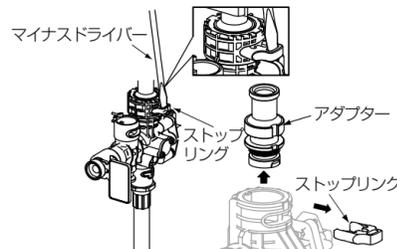
3. 給水バルブの抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管から給水バルブを外す。
※洗面器などで排出される水を受ける。



7. アダプターを給水バルブに取り付け、ストッピングを取り付け、吐出管に接続する。



4. ストッピングをマイナスドライバーで外し、アダプターを外す。



注意

アダプターを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷をつけたり、ゴミがまがいないように注意してください。
※漏水の原因になります。



吐水口キャップのストレーナーの掃除

※不意に吐水しないように、レバーハンドルを閉じてから作業を行ってください。

1. 専用工具で吐水口の先端のキャップを左回りに回して取り外す。



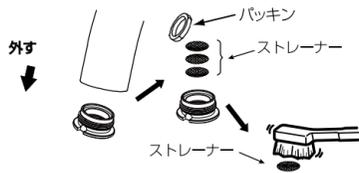
ポイント

- キャップの外側に専用工具を合わせてください。
- キャップが専用工具で簡単に回せるようになったら、手で回すと外しやすくなります。



吐水口を工具等でかまないでください。
※破損の原因となります。

2. パッキンを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。



注意

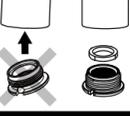
パッキンが水栓本体に残っている場合があります。



3. ストレーナーとパッキンを取り付け、キャップをはめる。

ポイント

取り付けるときは、キャップが斜めにならないように差し込む。



4. 吐水口の先端キャップを右回りに回して締め付ける。



3 流量の調節

1. 混合水栓の水側止水栓を開ける。

開ける



2. 手を差し出し、センサーを感知させ、流量を確認する。



流量が十分な場合
▶▶▶ このままご使用可能
流量が少ない場合
▶▶▶ 3以降へ進む

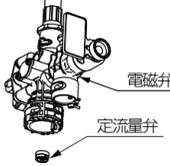
ポイント

- 定流量弁を装着しているため、一定以上の流量（4.0L/分以上）は出ない。
- 流量の目安は1Lの容器いっぱいにするのに約15～20秒。
- 水圧0.1MPa(約2.5L/min、1Lの容器が25秒程度でいっぱいになる流量)以下で流量が少ない場合に定流量弁を取り外す。

5. 電磁弁を逆さまに傾けて定流量弁を取り出す。

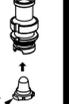
ポイント

定流量弁が取り外しにくい場合、ラジオペンチ等で定流量弁を取り出して下さい。

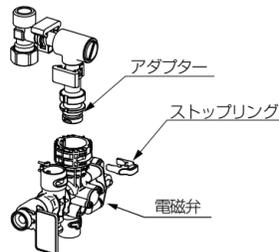


注意

定流量弁を取り外した後、必ずストレーナーは電磁弁に取り付けてください。
※ストレーナーを取り外してしまうとゴミ等が電磁弁内につまり故障の原因となります。



6. アダプターを電磁弁に取り付け、ストップリングを止める。



注意

- 電磁弁に取り付ける際、Oリングに傷をつけたり、ゴミがみがないように注意してください。
※漏水の原因となります。
- 定流量弁を取り付ける場合、向きに注意してください。
※向きを間違えると、水が止まらなくなったり、漏水の原因となります。

7. 混合水栓の水側止水栓を開ける。

開ける



3. 浄水カートリッジに貼ってあるシールの色と浄水ホースのワンタッチジョイントのリングの色を合わせて接続する。



5. 浄水ホースと水栓本体、浄水カートリッジの接続部から水漏れがないことを確認してください。

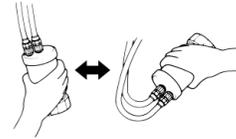
6. 浄水カートリッジを取付ブラケットに固定する。

注意

浄水ホースが折れ曲がったり、ねじれないように注意してください。



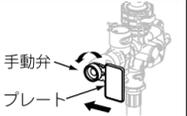
4. 浄水カートリッジの空気を抜きます。
※空気抜きと浄水能力を安定させるため、約10分間浄水を通水しながら、浄水カートリッジを上下にひっくりかえしてください。



5. 引渡前の確認

注意

給水バルブの手動弁を左いっぱい回した状態で、プレートをしっかり差し込んでください。
※プレートがしっかり挿し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。



お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

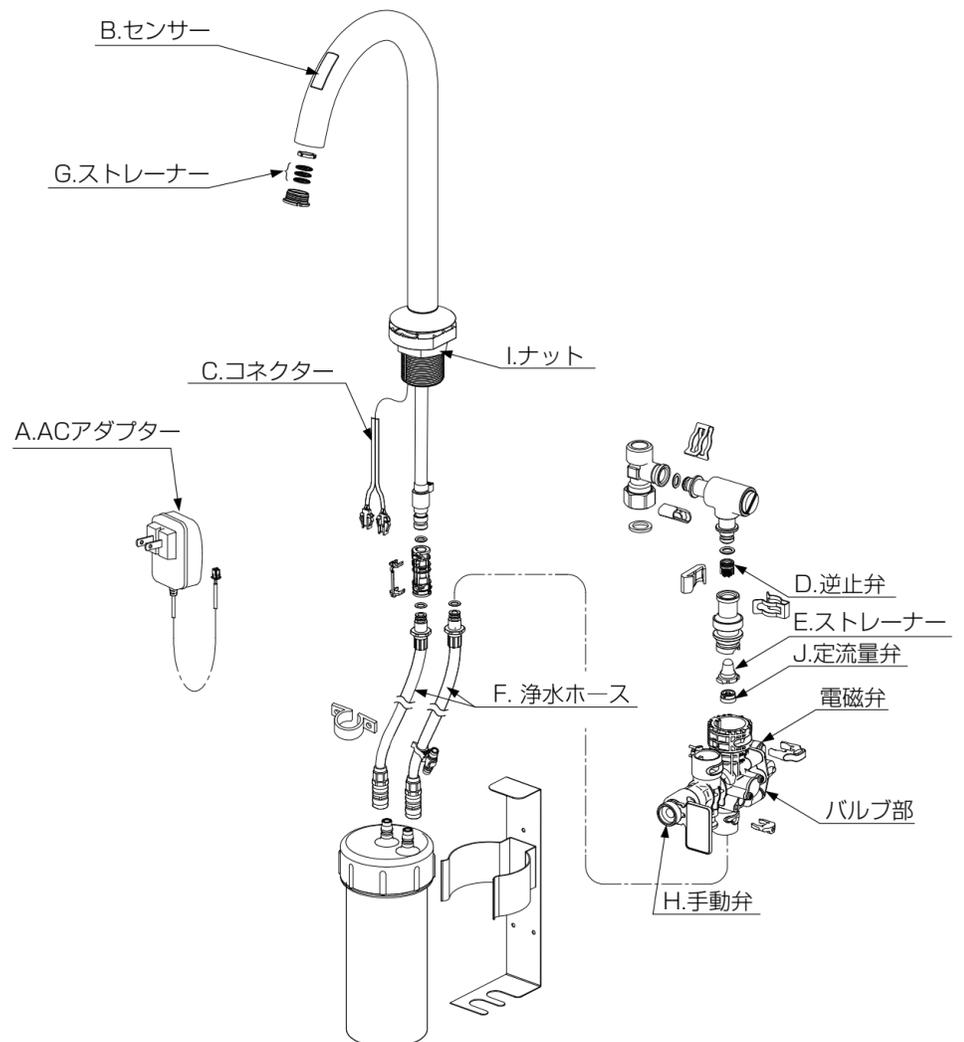
現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	-	止水栓を開く。	施工後の調整「流量の調節」
	コンセントに電気がきていないまたは停電中ではないか?	-	ブレーカーを確認する。	取扱説明書
	ACアダプターがコンセントに差し込まれているか?	A	ACアダプターをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか?	B	汚れをふきとる。 ※1	
流量が少ない	ストレーナーに、ゴミ詰まりはないか?	C	コネクタを接続する。	
	配管途中に大きな抵抗はないか?	-	抵抗となる障害物を取り除く。	
	浄水ホースが折れ曲がったり、ねじれたりしていないか?	F	ホースの折れ曲がり、ねじれがあれば取り除く。	
	水側止水栓は十分開いているか?	-	水側止水栓を十分開く。	
	低圧時に定流量弁がついていないか?	J	定流量弁を取り外す。	施工後の調整「流量の調節」
	分岐止水栓は調節されているか?	-	止水栓を開く。	
流量が多い	接続部から漏水する	-	キズがあれば部品を交換する。ゴミなどがあれば水で洗い流す。	
	止水しない	E	ゴミ等がないか? キズがあれば部品を交換する。	
漏水の逆流がある	センサーの感知エリア内に障害物はないか?	B	障害物を取り除く。	施工の前に「施工完了図」 施工後の調整「作動確認」
	センサーの表面が汚れていないか?	B	汚れをふきとる。 ※1	
	手動弁が開いていないか?	H	手動弁を閉じる。(左いっぱい回す)	
水栓本体がガタつく	逆止弁は正常か? (ゴミ、砂かみはないか? ・Oリングにキズはないか?)	D	ゴミ等を水で洗い流す。キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	ゆるみはないか?	I	ナットをしっかり締める。	

注意

※1センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
※キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。

- 水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、吐水口キャップの内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。
- センサーによる吐水・止水時にカチカチと音がするのは、電磁弁の動作音によるもので、故障ではありません。

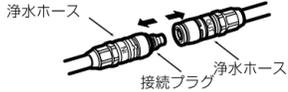


お客さまが施工後すぐに使用しない場合

お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、ACアダプターを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。
※浄水カートリッジは取り付けずに、そのままお客さまにお渡ししてください。

お客さまが施工後すぐに使用する場合

1. 浄水ホースを接続プラグから外す。



※接続プラグは浄水カートリッジ交換時、及び浄水カートリッジをご使用にならない場合に使用しますので、接続プラグホルダーに確実に付けておいてください。

2. 浄水カートリッジのプラグ先端の保護キャップを外す。

